



SEASIDE PARK

ひたち海浜公園から発信する旬な情報

国営ひたち海浜公園

PRESS RELEASE

2016年12月9日

H28年度 VOL. 46

本公園の
冬の風物詩

公園の自然素材で出来上がりました！

干支の巨大地上絵 完成！

展示期間：2016年12月10日(土)～2017年1月9日(月祝)



2016年12月9日撮影

11月24日(木)から制作を開始した、国営ひたち海浜公園の冬の風物詩『干支の巨大地上絵』が、明日からの展示期間を目前に、9日時点でほぼ完成しました。

材料となるコキアや松ぼっくりなど公園の自然素材を使い、『みんなでアート♪巨大地上絵をつくろう!』(12月3日～9日)に参加されたお客様の想いととも、2017年の干支「酉(トリ)」を描きました。

素材のみならず、デザインやコンセプトにも細部までこだわって制作している巨大地上絵。天に向かって力強く鳴く“ニワトリ”の姿を観覧車に乗ってご覧ください。

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報係 服部・浅沼

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4

TEL:029-265-9001(報道関係者の方は029-265-9004・9005迄) FAX:029-265-9339

ホームページ <http://www.hitachikaihin.jp> “ひたち海浜公園”で検索。

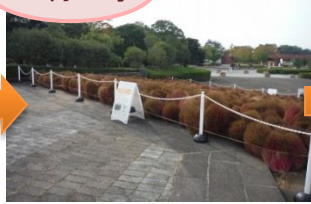
～干支の巨大地上絵ができるまで～

7～10月



夏から秋にかけて、コキアが魅せる色彩の変化を、多くのお客様にお楽しみいただきました。

11月上旬



紅葉が終わり刈り取ったコキアを乾燥させます。

11/24～12/2



いよいよ作業開始！材料となる薪などを丁寧に並べていきます。トリの羽毛はコキアで表現。

12/3～9



お客様に、松ぼっくりを木枠内に入れていただき、完成させます。ご協力ありがとうございます！



今回のテーマは「伝」！

鶏は夜明けを告げる動物であり、その鳴き声は闇を振り払い、光（輝く未来）を招くとされています。その明るい未来の到来を知らせてくれる姿から、『伝』という言葉を連想し、今回のテーマに決めました。

また、SNS等のコミュニケーションツールの発展が著しい現代において、伝えること、伝わることの大切さを改めて認識していただく機会にして欲しい、さらには、地域の風土・文化の魅力、貴重な自然環境など、公園の魅力を伝え続けていきたいという想いを込めています。

担当者からコメント♪

世の中では、SNSのトラブルが年々急増しており、言語情報がコミュニケーション全体に与える影響はわずか7%と言われてい
ます。大観覧車から地上絵をご覧いただき、伝えること、伝わることの大切さを再認識していただく機会にさせていただきたいです。

地上絵のデザインについて

デザインのモデルは、日本神話に登場し、天照大神が天岩戸にお隠れになった際に、八百万の神々が呼び寄せた“常世の長鳴鳥”の子孫に最も近いとされる「東天紅」。

- ◆「干支の巨大地上絵」サイズ 縦 24m×横 28m
- ◆コキア約500本 ◆松ぼっくり 約15,000個
- ◆ウッドチップ約3立米分 (3m³)

Q.巨大地上絵を始めたのはなぜ?



第一回 (2009年) の干支「丑」

A.「ひたち海浜公園ならではの、冬の新たな魅力となる新企画を！」というところから始まりました。松ぼっくりやコキア等、園内の素朴な自然素材を使用し、お客様の心をホッと温めるような作品をお客様と一緒に作り上げたいと考え、2009年からスタート。大観覧車に乗って上空から見る、スケール感あふれる景観を提供してきました。

ココを見てほしい！制作者のこだわりポイント

- ◆トリの羽毛 一枚一枚の羽根を表現するために、ひとつひとつのコキアを細かく割いた後に、ある程度の大きさに束ねて設置しています。
- ◆枠組み 全体的に太めの薪を使用し、枠組みを太いラインにすることで、東天紅の高貴さや存在感を表現しています。
- ◆目 輪切りにした丸太に墨をつけ、迫力ある瞳を表現しています。

地上からも
間近で細部まで
ご覧ください



巨大地上絵 鑑賞・撮影のススメ

- ①大観覧車に乗った際の、おすすめの鑑賞・撮影タイミングは、正面から見て11時の位置！
- ②午前中に大観覧車から巨大地上絵を観ると、縁取りの間伐材が日に照らされて、黄金色に輝きます！

この辺り

